家庭科における生徒の「主体性」を引き出す授業づくりに向けたリーフレット

「主体性」を引き出す授業づくりをする上での課題

家庭科、技術・家庭科家庭分野においては、普段の生活や社会に出て役立つ、将来生きていく上で重要であるなど、児童生徒の学習への関心や有用性が高いなどの成果が見られる。一方、（中略）家族の一員として協力することへの関心が低いこと、家族や地域の人々と関わること、家庭での実践や社会に参画することが十分でないことなどに課題が見られる。

「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（中教審第197号）平成28年12月21日（一部抜粋）」より

① 生活における課題を発見し、その解決策を考える機会を設定するが、日常生活に不便さを感じることが少ないこともあり、生徒自身で課題を見つけにくい。

② 従前から毎回の授業で課題を課し、そこから主体性を見取ってきたが、そもそも生徒が「主体性」を発揮した姿がどのようなものかを十分にイメージできていない。

便利で快適な生活の中で、生徒は不便さを感じていない…

校内で教科の悩みを共有できる人が少ない…

採点業務や校務が多忙で、落ち着いて考える時間がなかなかとれない！

学習指導要領では原則５/10以上の実習・実験に配当となっているけれど…

めざす像とは…？それをどうやって評価しようか！？

実習や実験の準備後片付け、予備実習や安全確認の時間が取れない！！

家　庭

上記課題を解決するために必要だと考えられること

- □ 生徒が学習を自分事と感じられるような問いかけをしたり、考えるヒントを投げかけたりすること。
- □ 授業において、社会で起こっている事象を積極的に話題にあげること。また他教科の教員や学年団の教員とコミュニケーションをとり、様々な場面で社会的事象を取り上げ、生徒が社会に関心を持てるようにすること。
- □ 学校だけで生徒の学習を育成しようと考えるのではなく、保護者等とコミュニケーションをとる必要がある課題を課すなどにより、実生活での課題や現状を知るきっかけを作ること。
- □ 学びのハブとして、様々な教科・科目と連携した授業実践を行うこと。
- □ 単元における「本質的な問い」や、家庭科がめざす「自立とは何か」を明確にし、問いを解決したときに身に付けていてほしい資質・能力を考えること。

家　庭

生徒の主体性を発揮できる場面を設けるために

- まずは、到達目標を明確にすること
- 次に単元終了時の到達イメージを生徒と共有すること
- そのうえで、下表のような学習過程を踏んでいくこと

「思考力、判断力、表現力等」は、どうしたら育まれる？

どこまでの「知識及び技能」の定着が必要？

「学びに向かう力、人間性等」はどのような姿が見られるようになることをゴールとするか？

家庭科，技術・家庭（家庭分野）の学習過程のイメージ

生活の課題発見	解決方法の検討と計画		課題解決に向けた実践活動	実践活動の評価・改善		家庭・地域での実践
既習の知識・技能や生活経験を基に生活を見つめ、生活の中から問題を見出し、解決すべき課題を設定する	生活に関わる知識・技能を習得し、解決方法を検討する	解決の見通しをもち、計画を立てる	生活に関わる知識・技能を活用して、調理・製作等の実習や、調査、交流活動などを行う	実践した結果を評価する	結果を発表し、改善策を検討する	改善策を家庭・地域で実践する

家　庭

課題解決に向けた具体的な実践例

● 課題解決に向けて教科として取り組んだこと

① 家庭科における指導と評価の一体化

府立貝塚高等学校における実践
単元：「ささえあって生きる」

単元の評価規準		
知識・技能 【知】	思考・判断・表現 【思】	主体的に学習に取り組む態度 【主】
1, 事例研究などを通して、家族や家庭の在り方について検討する技術を身に付けている。 2, 生涯発達の視点から、家族・家庭の意義社会との関わりなどについて理解し、人の一生の課題として捉えるための知識を身に付けている。	1, 家族・家庭と社会との関わりについての課題を見出すことができる。 2, 家族・家庭に関する情報から、それらが抱える問題について積極的な解決をめざし考えることができる。 3, 自分の意見やグループでの協議したことを文字、イラスト、表、グラフ、ロールプレイなど様々な手法を用いて表現することができる。	1, 家族・家庭の意義や役割、男女の平等と相互の協力などについて関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 2, 与えられた課題について、自分の意見を共有することで、深めようとしている。 3, 自分の取組みを振り返り、課題に取り組んだ後に自分の変容に気づこうとしている。

ポイント

この単元を通して「家族・家庭の在り方や社会との関りなど、柔軟な考えができる生徒になってほしい！」という思いを込めた目標に対する評価の規準を考えます。

ポイント

単元の目標を達成するためには、どんな仕掛けや題材の設定が適切か考えます。

多様な学びの提供

例えば…
- ワークショップ、実験実習
- 外部講師とのコラボ授業など授業形態に取り入れる
- 発表の機会を多く設定（個人・グループを問わず）
- ダイアログ（対話）の手法を取り入れた授業展開の実施

↓

試行錯誤すること、取組みや振り返りの深まりに繋がる

振り返る機会の設定

例えば…
- 毎時間、少しでも振り返りの時間を設ける
- 振り返りの方法の練習にする
- 浅いテーマから深いテーマへ進められる
- 自己評価＋相互評価も行える
- 対話を通した振り返りで客観性などの柔軟さや深みが出てくる

↓

次の授業への取組みやパフォーマンス課題への取組みにも好影響が出る

②　ワークシートの活用

パフォーマンス課題に向けたワークシート（ライフプラン）

家庭基礎課題	ライフプラン～生活設計をしよう～	教科書 20～21

1年（　　）組（　　）番　名前（　　）

1、近い将来の自分を考えよう。

① 5年後や10年後の自分を想像しよう。必ず実現したいことは何だろうか。

5年後（　　歳） ・必ずやっていたいことは？	10年後（　　歳） ・必ずやっていたいことは？

② ①を実現するために、近い将来の目標を立て、どのように取り組むかを考えよう。
今やることや、必要な資源は何だろうか。

（　　歳）頃の目標は…	今、やることは？ 必要な資質は？

2、生涯にわたるライフプランを立てよう。

① 将来の自分を想像して、長期的な目標を立てよう。何歳頃に、何をしていたいだろうか。

② ①の実現のために、中期的・短期的な目標を立てよう

③ 目標に向けて何をすべきか、何を身につけていけばよいか考え、歩みたい人生を具体化してみよう。

		15	20	30	40	50	60	70	100
目標(やっていたいこと、持っていたいもの、身につけていたい能力など)									
働く	職業労働(就職、昇進、転勤、異動、転職退職など)、家事労働								
人と生きる	結婚、出産、介護、病気、事故、引っ越しなど								
学ぶ	進学、留学、資格取得、習い事、生涯学習など								
楽しむ	ボランティア、趣味、続けていたいこと、持ちたいもの								

各項目の関係を生徒が自ら見いだせるように並べて比べられるようにした。

学んでいることと、今の自分とのつながりを考えられるように設計した。

課題を解決するために試行錯誤した過程を振り返られるようにした。

④ ライフプランを立てて気づいたこと	⑤ 30代までのイベントを1つ、自分の想定と異なるものに変えてみよう。 想定と異なるイベント＿＿＿＿＿＿を ＿＿＿＿＿＿に変える	⑥ ⑤のような転機において、その後のキャリアを充実させるために必要な力や大切なことは何か。

ポイント

・普段のワークシートとは別に、これまでの単元の学びをいったん確認する課題として設計します。

・１回１回の授業がどうつながっているかが分かるような工夫をします。

ポイント

・普段のワークシートとまとめのワークシートの役割の違いを意識します。

・普段のワークシートは、形成的評価に徹します。生徒にとって、ワークシートの書き方、考え方の練習となります。

・普段のワークシートでは、教員が生徒の理解度を把握して、フィードバックやアドバイスを行います。

ポイント

このワークシート自体も総括的評価の場面とすることも可能。今までの学習内容を活用して探究活動に取り組むことができているかについて、見取ります。

パフォーマンス課題（人生すごろく）

課題を作品にするために試行錯誤した様子を見取れるようにした。

なぜこのイベントが必要なのかを考えられるようにした。

① ルール

- スタート、ゴール以外で、
  ライフイベントが書かれたマスを20マス以上つくる。
- スタートは高校入学とする。
- ゴールは何歳でも良い。
- マスの書き方は下の＜例＞を参考にしてもよい。

＜例＞

30歳 **結婚する** **みんなから祝福されて** **２つ進む**	**45歳** **通勤途中に事故に遭う** **１回休み**

マスに書く内容

◎年齢

◎ライフイベントの内容

◎プレイヤーに対する指示

試行錯誤した過程を見取れるようにした。

- スタートからゴールへの道筋は自由とする。
- 各マスの形も自由とする。
- イラストを描く、色を塗る等自由に工夫する。

●生徒は今までの学習内容を再整理し、再構成する

効果としては…

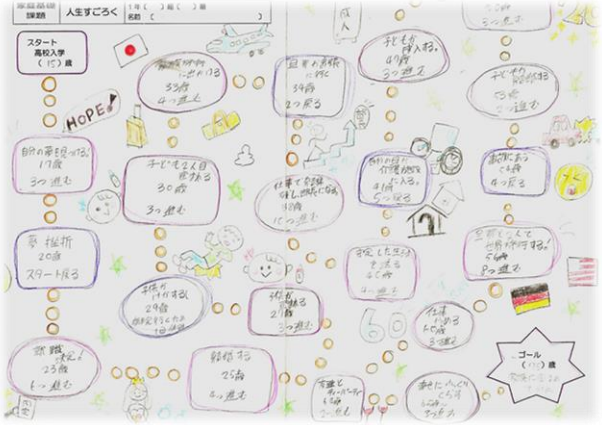
- 振り返ることで再整理できる
- 積極的に自身の今後の生き方や在り方を考えられる
- これまでの気づき（主体的な活動を促すための仕掛けでの）を反映することができる

↓

生徒自身の深まりや考えを問い直す「学びを調整する力」やゲームを面白くするために何度も考え直す「粘り強さ」につながる

教員の見取りは…

- 仕掛けと課題の取組の統合の確認ができる
- 振り返りに深まりやゴールに厚みがあるか確認ができる
- 最初の問いかけから変容が確認できる

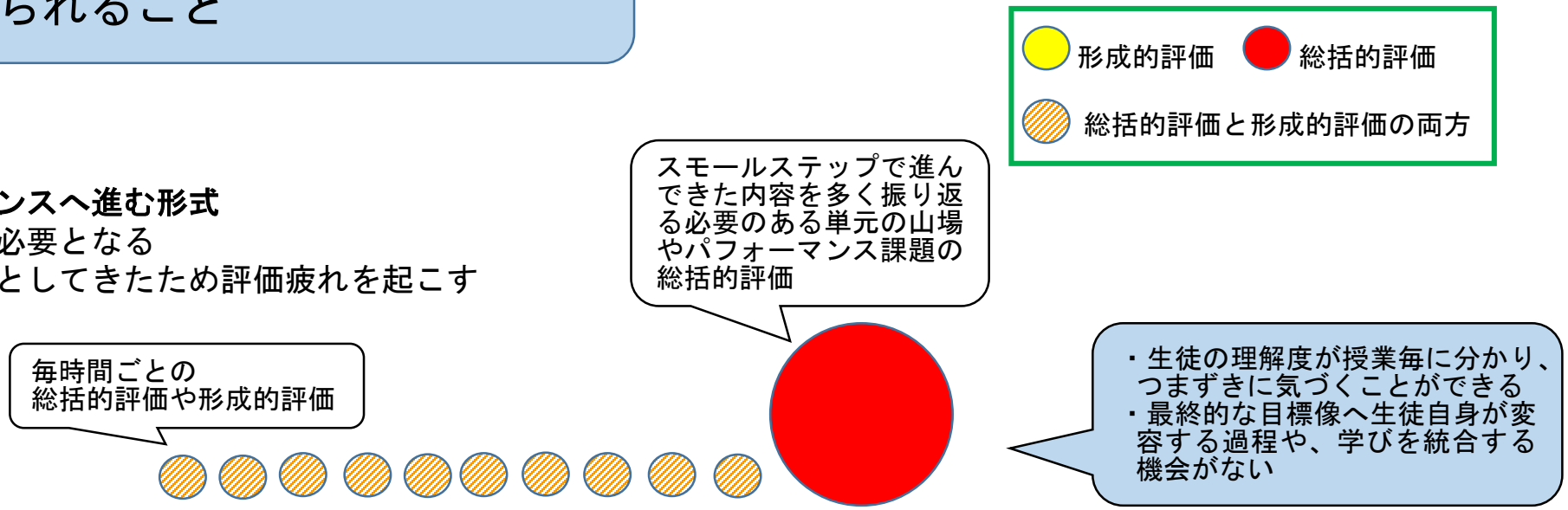


家　庭

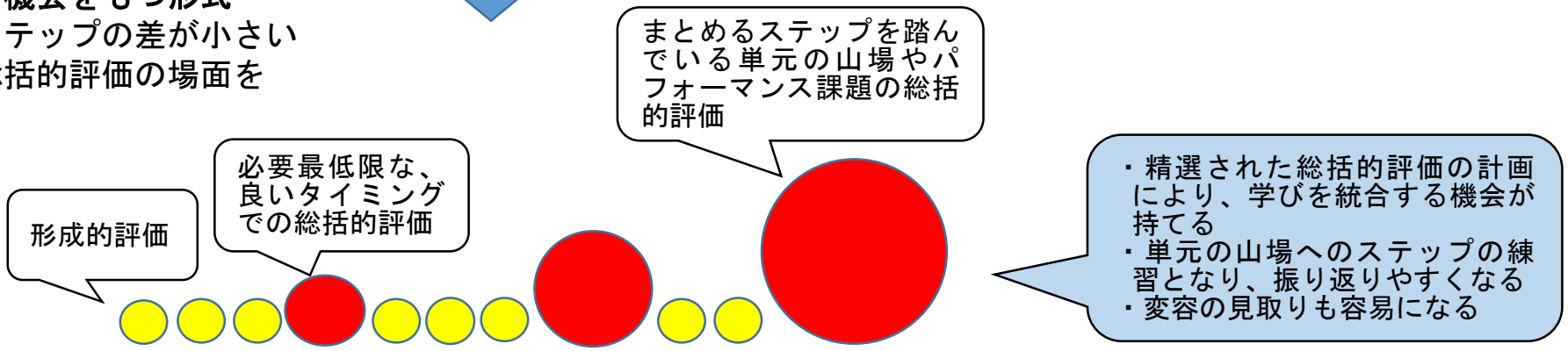
生徒の成果物や実践の振り返りから考えられること

□　単元の進め方の再検討

【従来の単元の進め方】
スモールから大きなパフォーマンスへ進む形式
・最後にいきなり大ジャンプが必要となる
・スモールも総括的評価の材料としてきたため評価疲れを起こす



【今後の単元の進め方】
中間にこれまでの単元を振り返る機会をもつ形式
・まとめる練習の機会があり、ステップの差が小さい
・普段は形式的評価に徹して、総括的評価の場面を少なくして指導に専念する



家　庭

□　パフォーマンス課題の設定と活用
・パフォーマンス課題の中で「主体的に取組む態度」も見取る
・そこに至るまでの単元の構成を検討

見取る内容は…
・「取り組むことができる力」、「共有し深めることができる力」、「気づくことができる力」
・ワークシートでは、「自身の成長、変容」を見取る

□　評価の視点の見直し
生徒が主体的に取組んだ過程や自立への視点を、
・「表現できるような課題になっているか」
・「興味を持って取り組んでいるか」
・「自立につながっているか」
↓
適切な支援につながる

ポイント
他者との意見交流を通して、自身の不十分な点や矛盾点に気付くことで「粘り強さ」、「学びを調整する力」が現れる

思考力、表現力、判断力が育ちながら
自立へ向かう主体性も育成される

●今後の課題
グループで行う題材や課題の場合は…
グループ単位で表れた成果の中で、個人のパフォーマンスをどのように引き出すか、そのパフォーマンスをどのように見取ることができるかについても、今後検討する必要がある。

家　庭